

点数	評価	
3.5以上～4	よくあてはまる	◎
2.5以上～3.5未満	ある程度あてはまる	○
1.5以上～2.5未満	あまりあてはまらない	△
1.5未満	あてはまらない	×

カテゴリー	点数 ( ):前年度	評価	評価の概要と今後の課題
I. 学校運営	3.4 (3.4)	○	本校は佐世保市が設置する学校として健全に運営されている。事業は市の方針および学校運営委員会での意見を反映し計画している。また、事業の進捗状況の確認や審議事案の検討は、教務会議や関連部署との会議および決裁を経ている。 入学試験受験者数は、少子化および大学志向の影響もあり、低下傾向が続いており、入学者の充足が難しい現状がある。この点においては市内高校との情報交換や入試方法の見直し等の対策を検討する。国家試験合格率は100%、就職率は95%以上であり専門学校として機能できている。
II. 教育活動	3.0 (3.0)	○	令和5年度は、新カリキュラム導入2年目であり、新旧カリキュラムが並行する複雑なカリキュラム運営だったが、計画どおりに実施できた。技術の習得においては、演習の授業にできるだけ多くの教員が入ったり、教科外時間を技術練習の時間に設定するなど演習の充実を目指してカリキュラムを運営した。実習においては、コロナによる影響は続き、やむを得ず学内実習へ変更することがあったが、実習病院へその都度相談し、実習病棟の変更や補完実習受け入れなどの協力を得て単位修得ができた。 教員の研究について、新カリキュラムで設定した地域・在宅看護論の講義・実習について実施状況をまとめ、県の学校協議会で発表することができた。また、数名の教員が大学院で看護学や経済学を学んでおり、キャリア支援として周りの理解と協力を得ながら履修継続ができている。得た学びは学校教育にも活かされている。 学生の自主的な学習活動を支援しているが、単位未修得や成績低迷など学習指導が大きく必要とする状況が昨年度同様続いた。個別の学生の情報や全体の学生像の変化、効果的な指導方法などについて教員間で検討・共有していく必要がある。
III. 入学、養成所の情報提供	3.0 (3.0)	○	これまで行ってきた高校生への進路ガイダンスや在学生と交流するオープンキャンパス・小学生看護セミナーなどの活動に加え、高校の文化祭へ出向き、看護技術を体験するブース活動を行い、看護師を志す以外の生徒にも関心を持ってもらう機会となった。また、小学校の職業を知る授業に学生が参加し、看護師になるための学校(養成所)の存在を知ってもらうと共に、学生においては看護師を目指す者としての士気が上がったという反応があった。今後も地域との交流を通して、看護および本校の魅力を発信し、学生確保に繋げていきたい。
IV. 学生支援	3.0 (3.1)	○	国家試験対策では教員による特別講義やグループ・個人と様々な方法で学習支援を行い、看護師国家試験全員合格につなげることができた。 学生の不安や悩み・相談の窓口は周知されている。迅速な対応となるよう、毎月の定期に加え臨時も依頼するなどカウンセラーと学校の連携を図った。また、今年度より開始した、心理の有資格者である教員による入学直後のスクリーニング面談は、学生をより早い段階で知ることができ、不安が多い入学生への支援となった。 学校生活の環境づくりとして、放課後が学生の時間として学生が活動できるよう、教員間での共通認識を図り、カリキュラムの調整などを行った。また、学生の要望の1つであった、昼食の弁当注文を開始した。
V. 就職、進学	3.5 (3.5)	◎	毎年の進路のデータや受験した学生が残した試験問題の情報を就職・進学の活動に活かしている。進路決定のために、1・2年生を対象に就職説明会を開催し、加えて2年生に対しては卒業生であるキャリアコンサルタントを招き、就職先とのマッチングに必要な自己分析を体験する講話を行った。3年にはには就職受験に向けた模擬面接や筆記試験対策を行い、大部分の卒業生が希望する就職・進学ができた。ただし、保健師・助産師を志望する学生にとっては、近隣県の養成所が減ってきており、進路決定において障壁となっている。
VI. 卒業生の把握	2.9 (2.8)	○	卒業した学生の状況については実習や会議等の機会に聞くよう努めている。特に入職から3年目までの卒業生の状況を知ることは学校での教育を評価するうえでも重要な情報となるため、今後就職先と連携を図っていく。また、卒業生の状況を在学生へ伝えることで、自身の先の姿をイメージでき士気を高めることにつながる。
VII. 地域社会への貢献	3.2 (3.1)	○	1・2年生は新カリキュラムを通して、地域での行事や活動にボランティアとして参加することが増え、学生にとっては他世代との交流を通して、コミュニケーション力を身につける機会となっている。 卒業生の8割弱が佐世保市内の病院に就職し、地域医療への貢献すなわち社会貢献に寄与したと言える。
VIII. ボランティア活動	2.9 (2.6)	○	地域・在宅看護論の講義や実習が契機となりボランティアの要請が増えた。学生・職員共に、生活支援サポーターとしてのボランティア、地域支え合いフォーラム、地域の行事、災害訓練などに参加している。学生にとっては地域住民との交流の場であり、学習の場でもある。教職員も学生と共に積極的に活動していく。また、このような活動は学校の魅力発信の機会ともなる。
IX. 学生満足度	3.2 (3.1)	○	授業に関しては「スマートフォンを使った講義もありわかりやすく、刺激のある講義だった」、「初めての实習でコミュニケーションと環境整備について学ぶことができた」などの意見があった。学習環境に関しては、図書室や冷暖房の整備改善を要望する意見があり対応を検討する。今後も学生の声を受け止めつつ、学習効果の観点を外さず学習環境を整えていく。